

令和2年度 川内川学識者懇談会 議事概要

開催日：令和3年1月29日（金）

開催時間：10：00～11：30

開催場所：川内川河川事務所別棟会議室

I：次第

1. 開会
2. 挨拶 川内川河川事務所長
3. 委員紹介
4. 議事
 - 1) 川内川水系河川整備計画の点検、今後の治水対策の進め方について
 - 2) その他
5. 閉会

II：主な意見等

（○：委員意見、●：事務局発言）

■川内川水系河川整備計画の点検について

- 川内川の整備が他の河川に比べて比較的進んでいるのは、H18年7月豪雨やその後の激特事業等を契機として進んでいるのか。
- 川内川では、H18年7月豪雨を契機に当時では全国で2番の事業規模の激特事業を実施した。その後も鶴田ダム再開発事業の完成、さらには緊急3ヵ年事業により、掘削事業等が大幅に進捗している状況である。

- 最近は大雨が降って土砂が流出し河床が上がっていることが多い。えびの地区で河床低下が起こっている理由は何か。上流側の土砂生産に変化が生じているのか。
- 伊佐市、湧水町など下流区間では土砂堆積も発生している。山地部からの土砂供給や河川全体で土砂移動の変化があった訳ではないと考えている。えびの地区においては、シラス層の上の硬い層が侵食され河床にシラス層が露出し、洪水の際にシラス層の洗堀が進んでいるものと考えている。平成23年出水時には床固工の下流部で河床が洗堀され床固工が崩壊した事例もあるため、河川構造物の保護、河床の安定化を図る為に対策を実施している。

- 樋門・樋管の無動力化とはどのような原理を使ったものなのか。遠隔で操作するものなのか、水位の状況で自動的に閉まるのか。
 - 現在整備している施設（フラップゲート方式）には、操作室等はない。通常時はゲートが少し開いている状態で、堤内地側からの水が排水されるが、河川水位が上昇すると水圧でゲートが閉まり、逆流を防止する構造となっている。
 - ゲートに流木や塵芥が挟まる等の心配はないのか。堤内側にゴミや流木をトラップする施設が設置されているのか。また、バックアップ施設のようなものはないのか。
 - ゴミ等による障害について、現時点で大きな影響は発生していない。ご指摘の内容はフラップゲートの1つ課題点であり今後も検討していきたい。上流側にスクリーンを設置する場合もある。
-
- 川内川は盆地部と狭窄部が連続しているが、盆地部と狭窄部の連続という視点と河川整備がどのように関連しているのか。
 - 盆地部と狭窄部の連続については、川内川の地形的な課題となっている。その課題を考慮しながら、整備を進めている。整備計画の変更にあたっては、狭窄部の対応として、上流に遊水地を設置する等の検討を考えている。
-
- H21年の整備計画の資料では、堤防整備率が64%だったと思う。事業の9割が完了もしくは、着手予定とのことだが、整備率はどのようになっているのか。
 - 堤防整備率はR元年度末時点で約80%となっている。これは、完成堤の整備率である。暫定堤まで含めた整備率については別途回答する。

■今後の治水対策の進め方について

- 川内川の個別の事業に関しては景観カルテ等すばらしいと思うが、全体がない。川内川には“この川はどういう川だから、どういう環境・景観に関する方針なんだ”という大枠について、山国川の床上対策事業の事例や緑川の水辺空間計画の事例などを参考に整備計画の見直しとあわせて検討すべき。
 - 委員のアドバイスを受けながら進めて行きたい。
-
- 流域治水を行うにあたっては、全体を考える必要があり、例えば、河川監視カメラを整備して、川に行かなくても川の状況がわかるようになると、安心安全にはつながるが、益々、川に行かなくてよくなる。それは良くなく、散歩しながら川の状況を確認するなど、川を見ながら川のことを思っただけ。防災に関するシステムと暮らしに関するシステムがマッチするような工夫を全体で考えて欲しい。

- 危機管理型水位計については、天然ダムの検出に使えるのではないかと期待している。設置費用はどの程度か、また、運用上の問題点はないのか。
- 危機管理型水位計については、1基あたり100万円前後で設置している。大規模出水時の状況は確認できていないが、実験等では問題ないことを確認している。

- 最近の災害を見ると、高齢者施設や病院にかなりの被害がでているような気がする。民間の場合には、条件が良くない場所に建っていることも考えられる。川内川流域にそのような場所がどの程度あるのか、ある場合はその施設にどのような対応をするのか。
- 高齢者施設や病院等が被災している理由の1つとして、以前の災害外力ではあまり問題が無かったが、気候変動で災害外力が増大している為、災害が発生するようになってきている、リスクが高くなっているのが現状である。
- 高齢者施設や病院等の対応については、流域治水プロジェクトに位置付けて、各関係市町と連携した対策を検討中である。

- 川まちづくりについては、川内川流域全体のストーリー性を作れば効果がでるのではないか。(観光、曾木発電所跡等の歴史的遺構の周知 等)
- 川まちづくりについては、それぞれの地区で出来上がっており、今後それぞれを繋げていく検討を進めているところである。

- 本日、委員の方々から頂いた意見を踏まえた上で、川内川水系整備計画の変更に向けて、今後検討を進めさせて頂く。来年度以降、複数回にわたり学識者懇談会を開催していきたいと考えているが、必要に応じて、他分野の学識者にも懇談会に出席して頂くこともあるため、その際は、小松委員長に相談させて頂く。

以 上